あとがき

本校では、平成25年度からキャリア発達を「子どもたちが経験を通して、自分や自分に関係があるすべての事象に対する知識や認識を、より現実に即して新たにしていくこと。そして、その営みを繰り返しながら、自分らしい生き方を実現していくこと」と捉えて、「小中高12年間の見通し」や「児童生徒の内面への着目」を重視し、児童生徒の学びや育ちのプロセスを丁寧に見とる実践を積み重ねてきました。

さらに今年度からは、本校で積み重ねてきたキャリア発達支援教育の実践の知見を、アクティブ・ラーニングの視点である「主体的・対話的で深い学び」に沿って組みなおし、実践に反映させるべく「地域や人との関わりを通して、学ぶ楽しさ、伝え合う喜びを育む授業づくり」というテーマで研究を進めて参りました。

研究一年目の今年度は、「主体的・対話的」をどう捉え実践に落とし込むか、教科等特徴シートの授業構成観点等の共通理解をどう図るか、さらには児童生徒の変容のエビデンスをどう表すかに時間をかけてきました。そのため授業実践については二学期から始まったこともあり、取り組みはまだまだ不十分です。しかし、キャリア教育研究の時から行ってきた「授業づくり」「新学習指導要領を反映した教育課程づくり」「地域に開かれた学校づくり」については、中学部の「交流学習及び共同学習」や高等部の「地域学校協働活動」などの実践として、今回の研究にも受け継がれています。ここ数年で、本校と地域との関係が質的にかつ多角的に広がっていること、さらに教育課程の骨格が整いつつあることに手ごたえを感じています。

しかし、「対話的」を十分に理解せずに対話をすることが目的の授業づくりを行ったり、教科等を合わせた指導の中で教科との関連性を十分に検討できてなかったりと課題は多くあります。さらには、私たち自身が「主体的・対話的で深い学び」ができる教師集団であってきたかという内省も必要です。

今回の教育研究会にご参加いただいた皆様や本研究紀要をご高覧いただく皆様から忌憚のないご意見やご指導を賜りながら、今後も研究を進めて参りたいと考えております。

最後になりましたが、研究に際しまして、関西学院大学教育学部教授の菅原伸康先生には、今年度の研究フォーラムの講師としてまた研究授業の助言者として示唆に富むご教授をいただきました。さらに、金沢大学准教授　青木賢人様、学校評議員　耕田義治様、金城大学教授　佐伯英明様、金沢市社会福祉協議会　水橋佑介様、味噌蔵地区民生委員・児童委員協議会長　宮村忠利様、5名の学校研究協力者の方々にご協力・ご助言を賜りました。謹んでお礼申し上げます。

教 頭　下野 令子